

三陸の海を放射能から守る 岩手の会

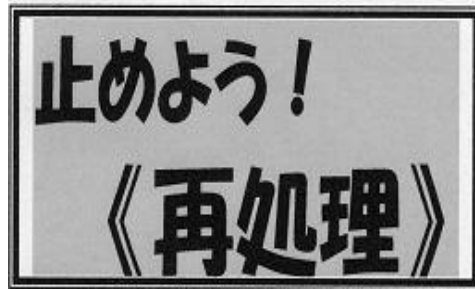
ミニコミ通信 第42号
署名用紙は **ここに**あります

<http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm>

《岩手の環境/R I 廃棄物/再処理》

http://briefcase.yahoo.co.jp/k_imag

《まった再処理分庫》



2007 (平成19) 年

9月 1日

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX 019-623-1636

郵便振替

02240-5-102650



生産者と消費者の団結で 放射能汚染阻止!

『六ヶ所再処理工場』に反対し放射能汚染を阻止する全国ネットワーク「青森集会」は、8月25日午後1時半から青森市文化会館に、日本消費者連盟など呼びかけ6消費団体傘下の消費者と、農漁業生産者

など約350人が集まり開催されました。「子ども達に豊かな自然を残すのは私たちの責任!」という思いを込めて消費者と生産者が固く団結して、放射能汚染を阻止するための闘いが青森から開始されました。

集会に先立て 署名行動とパレード

青森集会に駆けつけた参加者は、さっそくチラシ配りと署名活動を行いました。さらに県庁前の青い森公園から市街を回る盛大なパレードを行いました。

集会の代表委員の富山洋子日消連会長はパレードのマイクを握り「何とんでもなくても生命が第一。放射能から環境を守ることが子どもたちの生きる権利・人権を守ることであります。」と市民に呼びかけ共感を呼びました。

東京から青森へ 「キックオフ宣言」

一時半から開催された集会は、「東京での『キックオフ宣言』」に続いて、さらに青森で運動を展開させよう」という合い言葉のもと、熱い雰囲気が始まりました。

微量でも放射能は危険 学識経験者報告

続いて三人の学識経験者から現状報告がなされました。

京都大学原子炉実験所の小出裕章さんは、東海村のJCO事故で亡くなった大内さんの腕の写真を示し、「事故の時の放射線のエネルギーは、生命を構成している分子結合のエネルギーに比して十

万倍以上もあった。体温を千分の一上昇させるに過ぎないわずかなエネルギーであったのに、大内さんは体細胞機能を破壊され、再生能力を失い助からなかった」と指摘し、放射線被曝の意味を分かりやすく説明しました。

放射能汚染食品測定室 代表の藤田祐幸さんは

「チェルノブイリ事故以来食品の放射能を測定してきたが、市民による自主的な監視活動は特に重要」と強調し、東京海洋大学名誉教授の水口憲哉さんは「六ヶ所の放射能廃液は、ハガキ漂着調査から、岩手から千葉までの沿岸に確実に漂着する」と予測を語りました。

青森県民も闘っています 青森からのメッセージ

青森県議の鹿内博さんは、「青森県は今月末にもアクティブ試験第四ステップ再開を了承するとの報道もあるが、新潟県中越沖地震の教訓を生かそうとしない姿勢だ。改訂耐震指針による評価が出されてから結論を出すべきだ」と語りました。

「核燃一万人訴訟原告団」の山田清彦さんは、仙台高裁に提出された低レベル廃棄物処理場地下断層資料などを示し、裁判の報告を行いました。

生産者こそ安全なものを届けたいと願っています

リレートーク

リレートークでは、二人が登壇し、「風評被害」や「不買運動」について多くの意見が交換されました。特に、運動の目的は諸悪の根源である「再処理工場」の稼働阻止であって、消費者と生産者を対立させる運動形態ではないという意見が強く出されました。

青森で農業を営む府（さそう）清悦さんは「私たちは全ての青森県産品に放射能濃度の数値を表示する運動を進めています。数値を見て他県との差がなければどうか青森県産のおいしい農産物を買ってください。放射能数値があがるとすれば、それは再処理工場が原因ですから、生産者、消費者とともに、反対してゆきましょう」と語りました。

今こそ稼働中止を！

集会アピール

集会は、「生産者・消費者、共に力を合わせ、命を蝕み環境と食べ物放射能汚染をもたらす再処理工場の稼働中止を強く求めてゆこう」という集会アピールを採択しました。岩手からは生活クラブ生協五四人、重茂漁協八

第四ステップ中止 耐震安全性の見直しを！

29市民団体、青森県議会に要望書提出

「花とハーブの里」「三陸の海を放射能から守る岩手の会」など五市民団体は、「中越地震による原子力施設耐震評価の崩壊を踏まえた要望書」を八月二十四日ファックスで青森県議員とマスコミに送りました。この要望書には、さらに「豊かな三陸の海を守る会」など全国二四の市民団体が賛同し連名しました。

新潟県柏崎刈羽原発は想定外の強い地震に襲われ、火災が発生し、機能が停止しました。同じ核施設の六ヶ所再処理工場の耐震問題は、個々の原発よりさらに深刻です。このような事態

下北半島周辺の断層地図



○人などが参加しました。署名要請団体には、重茂のほか、大浦、織笠、山田、船越の四漁協が加わりました。

漁業者と消費者署名行動
九月十一日盛岡・北上・一関

青森集會に出席した岩手の漁業者と生活クラブ生協岩手の組合員は九月十一日十時半から署名行動を行います。盛岡では、川徳デパート前と産ビル前です。

原発閉鎖も 視野に 入れた 客観的な 検証を

科学技術者が声明

「柏崎刈羽原発は再稼働するという雰囲気です。これではいけない」として、「同原発の閉鎖を訴える科学者・技術者の会」が、八月二一日、東京都内学芸会館で記者会見し声明を発表しました。

柏崎刈羽原発の ダメージは深刻

「柏崎刈羽原発周辺で再び大地震が発生する可能性を否定できない。この地域は地殻活動度が高い「羽越―信越褶曲帯」の真っ只中にあり、活断層も多い。」

① 柏崎刈羽原発周辺で再び大地震が発生する可能性を否定できない。この地域は地殻活動度が高い「羽越―信越褶曲帯」の真っ只中にあり、活断層も多い。

《要望書要旨》
原発自身が八月二十日海

再処理の先がけとなった英仏の工場周辺には大地震の巣はないといわれる。中越沖地震の震源域となった活断層の実態や、刈羽原発の被害の全貌が明らかになっていない。アクティブ試験再開の是非はこれらの調査終了後に検討すれば良いことである。

分な支持性能を持つ地盤に設置されなければならない」と規定しているが同原発は明らかに立地不可能である。

「放射能を流すな」の一斉署名行動は、青森、岩手、宮城、埼玉、東京、大阪、京都など各地で創意ある取り組みがなされました。

原燃から回答書届く

日本原燃は、私たちが提出していた「放射能除去と海藻からのプルトニウム検出についての緊急質問状」について、八月十三日にやっと回答書を送付してきました。

各地で一斉署名行動

内容について次号に掲載します。回答全文と私たちの見解は、当会ホームページに公開しました。